



絵画展会場でテープカット

はなやま

第47回宮城県芸術祭が開幕

発行
社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0803)
仙台市青葉区国分町 3-3-7
宮城県民会館内
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
編集 小山喜三郎

芸術の秋を彩る第四十七回宮城県芸術祭が九月二十四日から
の絵画、華道、彫刻の各展を皮切りに十一月十八日の閉会
式まで二か月にわたり開催されている。会期中、巡回展は写
真展が蔵王町・大和町で、絵画・書道展は東松島町で開催。

絵画・華道・彫刻展で皮切り

巡回展は3会場で開催

第四十七回芸術祭の開幕式
は午前十時から、せんだいメ
ディアテーク五階の絵画展会
場前で行われた。式には主催
七団体の宮城県芸術協会、宮
城県、仙台市、宮城県教育委
員会、仙台市教育委員会、河
北新報社、宮城県文化振興財
団の各代表と、絵画部、華道

部、彫刻部を中心とした芸術
会員らが多数出席。小山喜三
郎芸術協理理事長が「絵画、華道、
彫刻展を皮切りに十一月十八
日までさまざまな分野で芸術
の秋が花開く。広く県民に門
戸をひらく巡回展も併せて開
催することにした。芸術祭は
作家の息吹きに触れることが

今年も県民との交流をはか

部、彫刻部を中心とした芸術
会員らが多数出席。小山喜三
郎芸術協理理事長が「絵画、華道、
彫刻展を皮切りに十一月十八
日までさまざまな分野で芸術
の秋が花開く。広く県民に門
戸をひらく巡回展も併せて開
催することにした。芸術祭は
作家の息吹きに触れることが

今年も県民との交流をはか

出来るので多くの参加を望ん
でいる」と開会のあいさつを
述べた。
つづいて主催七団体を代表
し、芸術祭名誉会長の仙台市
長(代理)のあいさつがあり、
その後テープカットを行い、
芸術祭の開幕となった。

書道展においては出展作品
に『宮城県文芸年鑑』所収の
作品を取り上げるなどして、
部門間の交流もさらに深まっ
た。期間中受賞者による揮毫
会や奈良より講師を招いての
「墨の話」の講演があり目と耳
で楽しむことができた。

閉会式は11月18日
会場メトロポリタン仙台
第四十七回宮城県芸術祭の
閉会式は十一月十八日(木)
午後六時からホテルメトロポ
リタン仙台で開催される。授
賞式のと各賞の受賞者を囲

んで来賓と芸術協会の懇親会
が開かれる。多くの会員の参
加が望まれる。
参加希望者は十一月八日ま
でに芸術協会事務局へ申し込
んでほしい。
会費は六千円(当日会場受
付に納入)。

宮城県芸術協会と韓国芸術文化団体連合会大邱広域市連合会との交流は十六年になる。昨年六月仙台で本協会と大邱間で取り交わされた協定書で、二〇一〇・二〇一一年は書と工芸を取り上げることが決まった。

本年は本協会が大邱を、来年は大邱が仙台を訪問し交流を深める。この交流で書は初めて取り上げられた。韓国は漢字文化圏だが、現在は漢字を元にして作られたハンゲルを使用する。人口二百五十万の大邱市内はどこもかしこもハンゲルであふれていた。わずかに博物館、史跡といった限られた場所で見られる程度だった。そうした実状から本交流で書を取り上げられなかったやに聞いている。

八月十七日から、二十一日まで、大邱市文化芸術会館で「大邱・仙台国際芸術交流展」が開催された。書と工芸がそれぞれ一室ずつを分担した。隣に続く三室に大邱の作家の作品が同時に展観された。

宮城の書の今を紹介

大邱・仙台国際交流書道・工芸展

中塚 仁
(書道部・主任)

の作品を一堂に展観した。会場には一点一点をじっくり鑑賞できる余裕のある展示ができた。その展示は、書が醸し出す心地よい空間を通して大邱市民に宮城の書の今を伝えることができたのでなかろうか。

十七日夕刻、大邱市当局を始め、多くの関係者の参列を得、盛大な開場式が行われた。引き続き、同会館別室でレセプションがあった。参観者に宮城の書の姿がどのように映ったのか知りたかったが、大邱市民や作家と意見交換の時間を十分に確保できなかったことが惜しまれる。

大邱側で展観した書作品は漢字、漢字とハンゲルを交えたもの、ハンゲルによるものがあった。表現内容は多彩で、一部には文人の雰囲気漂わせるものがあった。また、韓国ではどのように評価されるのか、日本の前衛書と共通する表現をとった作品もあった。書、工芸をはじめ他の分野の作品のいずれもが質の高い、見応えのあるものだった。

来年六月、宮城県美術館で開かれる交流展が楽しみである。

大邱・仙台国際芸術交流展が、八月十七日から八月二十一日まで大邱市文化芸術会館で開催された。今回は十五回目で、書道・工芸部門が交流した。

八月十七日、午前十時から作品を搬入した。後からも梱包し易いように、作品を一点ずつ慎重に取り出していく。会館の会場は壁面が広く、四十三点の作品の内、染織十二点をゆったり掛けることができた。太い柱と柱の内側に陶器、木竹、七宝、金工、ガラス作品を高低差のある台に配置し、全体のバランスを見ながら順調に展示を終了した。手伝いをしてくれた大邱の若者が、仕切り用のロープを張り廻すのに驚いたが、子供たちが走り廻ることを想定しているとの説明だった。昼食にはサンゲタンを食べ、韓国の夏の食事は暖かい料理が意外に多いのに気付いた。

午後五時から会館ホールでオープニングセレモニーが始まった。出席者は多かった。韓国芸術文化団体連合会大邱広域市連合会会長文武鶴氏のご挨拶。宮城県芸術協合理事長小山喜三郎氏がお話してい

大邱・仙台国際交流書道・工芸展

渡邊つる子
(工芸部・主任)

交流し影響し合う場

る間、去年仙台でのイ・カンタンティ男性合唱団と協会の会員による音楽会のすばらしかったことを思い出したり、それぞれの専門家が交流し影響し合えることの大切さを感じていた。その時、仙台から訪問した全員が呼ばれ、大勢のテープカットとなった。その後大邱の方々も展示室に移動し、交流を重ねながら一時間ほど鑑賞していただいた。とても好評でホッとしました。

午後六時半から会館内のレストランでレセプションが催され、午後八時からの歓送会はマッコリパーティーとなり、歌や踊りで大いに盛り上がった。

八月二十日、午前中に搬出作業を手際よく行い、会館内にある大邱連合会会員の作品を販売する店に入り、皆で買物を楽しんだ。仙台でもこのような店があったら若い会員の手助けになりそうと思いつながら会館をあとにした。

因みに工芸部門の訪問者は、七宝の高橋通子、高橋とも子、染織の渡邊つる子、浅沼信子。陶芸の浅野治志、近藤孝則、小川和子の七名だった。



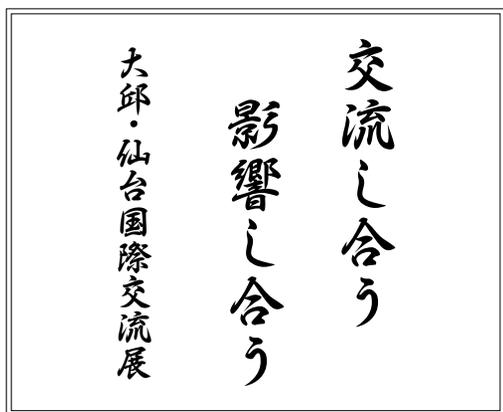
みんなでテープカット



歓迎晩餐会の理事長



広々とした会場



作品に見入る大邱市民



展示会場に全員集合



両団体の交流協議



一服どうぞ



みやぎミュージックフェスタ 2010 in 角田が六月二十七日、角田市民センター大ホールで盛大に開催された。第一部は市内で活動する合唱団と演奏家の発表。第二部は芸術協会会員による演奏と共演。第三部は角

田で生まれた歌の大合唱の構成で進められた。本協会会員の渡部ジュディス、鶴岡たみ子、門脇磨美子の三氏の演奏と独唱が地元の方々と共に演奏され、好評であった。特に本協会会員の八島秀が第三部で指揮をとり、自身が作曲した「うるわし角田」が披露された。今回は特に角田出身の地元音楽家が多数出演したことが目立ち、合唱団も含めた幅広い音楽の広がりを感じた。てまりつさうた「あれ流れ

の」が初演され、角田市農協創立十五周年記念映画主題曲「わがふるさと」と角田市市政施行五十周年記念賛歌「うるわし角田」が合唱された。エンディングでは「故郷」を力一杯合唱し、共通の想いを込めて参加者が一体となった。市長初め、多くの方々が最後まで熱心に鑑賞されていたことにも感銘を受けた。ミュージックフェスタを毎年開催している意義を深く考えさせられた。(小山喜三郎記)

ゲイジユツの秋

絵画部と 県民交流

平成二十二年十月二日

(土)、当協会絵画部は県民との美術交流を目的に二会場での「芸術の秋・秋の一日ゲイジユツしましょう！」を表題に開催した。

I、人物クロッキー

同日午前十時から午後の零時まで東京エレクトロンホール宮城四階会議室で、大内欽二・吉田利弘・奥山和子の三氏を講師に迎えてモデル(裸婦)を使い、初心者でも簡単に人体をとらえられるように

描く講習会がもたれた。

II、ギャラリートーク

同日午後三時三十分から五時三十分までせんだいメデアテーク五階・六階を会場に成人を対象に行われた。開催中の絵画展の作品を見ながら、今日の絵画・美術事情と共に展示に関わる話を、東北生活文化大学教授の北折整氏が講演した。

III、絵画楽園

同日午後一時三十分から三時三十分まで同会場で、児童・

生徒を対象に美術とは楽しいものと実感できる体験対話形式の鑑賞会が行われた。講師はハート&アート空間「Be I」代表の関口怜子氏がつとめた。

書道部 揮毫会と研修会

書道部では恒例の「受賞者による揮毫会」書の楽しさを目と耳で―を十月十日(日)午前十一時から十二時まで、せんだいメデアテーク六階のホワイエで開催した。

受賞者は百二十余名のギャラリーの熱い視線を受けて、

緊張感の中で揮毫していた。「どんなイメージで筆を持つのですか」などとギャラリーから質問が相継ぐ場面もあり、期せずして目と耳で楽しむ交流の場となった。

同日午後二時から四時まで、会場を東京エレクトロンホール宮城の六階大会議室に移して書道研修会が行われた。墨運堂会長の松井重憲氏が「墨の話―こんな工夫で墨が生かされる―」の演題で講演された。そのあと会場の参加者(百六名)からの質問に松井氏が答える形の応答が四十五分に渡って続けられた。書の現場で日夜励んでいる書道家の切実な質問は分野が違っても納得させられるものだった。(坂内佳禰記)

羽後・南部への

文学散歩

第47回県芸術祭の文学散歩「羽後・南部文学小紀行」は九月二十八・二十九日の二泊二日の日程で行われた。

雨にけむる東北・秋田自動車道を一路横手の石坂洋次郎記念館に向かう。同記念館では在りし日の洋次郎を髣髴さ

せる机が印象に残った。次に角館の新潮社記念文学館・平福記念美術館・武家屋敷を見学した。ここ角館でラッキーナ出会いがあった。仙北市制五周年を記念する「芥川龍之介展」である。「龍之介の生涯」「龍之介の遺愛品」龍之介の「書画」が三会場で開かれており知らぬ間に小雨降る角館の町を散策していた。

昨日の雨はすっかり止み、秋空に高く裾ひく岩手山を仰ぎながら岩手県立美術館へ向かう。開館を待つしばらくの間美術館の前庭で秋の風を楽しんだ。

午前十一時野村胡堂記念館到着。館長の説明により小説家、音楽評論家、そして一人の父親としての野村胡堂に触れた。最後に訪ねたのは高村山荘。参加者二十八名はそれぞれ印象を胸に仙台駅にて無事解散した。(佐藤淑子記)

宮地房江顧問がご逝去

染色家で芸協顧問の宮地房江氏が平成二十二年十月五日、ご逝去された。九十九歳。追悼記事は次号を予定している。合掌。

あるべき姿の本格的検討始まる

～公益法人移行準備委員会を設置～

平成二十二年度
総会で、当芸術協
会が公益社団法人
への移行を目指す
決議がなされたこ
とを受け、去る七
月二十二日開催の
第三回理事会で、
公益社団法人移行
準備委員会の設置
要綱が承認され、
以下の十名の委員
が選出された。

各委員会の審議内容は次の
とおりである。
七月二十二日開催の第一回
委員会では、要綱にもとづ
き、委員長に小山喜三郎委員
が互選された。また、議事の
進行を円滑に進めるために座
長を置くことになり、田村正
晴委員が就任した。会議日程
については、原則として月一
回のペースで開催することが
決まった。

委員会では、まず定款改正
の検討から始めることにな
り、早速、現定款の問題点、
内閣府のモデル定款の内容、
新旧モデル定款の相違点など
について検討が行われた。

第二回委員会は八月四日に
開催され、定款改正のうち、
総則、目的及び事業、会員、
総会についての検討がおこな
われた。

第三回委員会は九月十三日
に開催され、定款改正のうち、
役員等についての検討が行わ
れ、新法人における役員の種
類と権限をどのように設定す
るかが討議された。

この問題は新法人の機関設
計に関わる重要事項であるこ
とから、十月二十五日開催の

第四回委員会でも引き続き検
討され、改正案の骨子が固
まった。

なお、十一月一日の第四回
理事会で経過が報告される。

委員会では、定款の改正案
に引き続き、新公益法人制度
に適合する公益目的事業、共
益事業、新会計基準に対応し
た財務内容の見直し、内部規
定の整備などの検討を行い、
早ければ平成二十三年度内に
公益法人移行申請のための臨
時総会開催を目指して作業を
進めることにしている。

事務局 日誌

会務報告

- 普野美術館賞について
9月14日～9月19日
宮城県美術館
- ☆第35回教育書道研究会学生部書
道展
9月17日～9月22日
せんだいメディアアテーク
- ☆第35回素心会書道展
9月17日～9月22日
せんだいメディアアテーク
- ☆第25回都山流尺八演奏会
9月19日
仙台市青年文化センターシア
ターホール
- ☆桃生小富士「絵と川柳展」
9月20日～10月9日
仙台文学館1Fホール
- ☆第30回記念「日本の調べ」演奏
会
9月25日
イズミティ21小ホール
- ☆山田明於絵画教室第11回合同展
8月26日～9月1日
せんだいメディアアテーク
- ☆第63回春光会展
8月17日～8月22日
大崎市民ギャラリー「緒絶の
館」
- ☆第55回筆祭り全国展
7月23日～7月28日
せんだいメディアアテーク
- ☆第14回گران・ラバン協会展
8月6日～8月11日
せんだいメディアアテーク
- ☆美里町近代文学館開館20周年記
念事業「宮城示現会美里展」
7月17日～7月25日
美里町近代文学館町民ギヤ
ラー
- ☆第46回宮城水彩展栗原展
8月27日～9月4日
栗原文化会館
- ☆第2回青画会日本画展
8月31日～9月5日
東北電力グリーンプラザギヤ
ラー
- ☆第29回新芸術東北展
9月3日～9月8日
せんだいメディアアテーク
- ☆第9回夢・楽描き展
9月10日
東北歴史博物館
- ☆第2回「書の勉強会」(生成会)
の書作小品展 併催・鈴木隆
子作陶展「遠藤キミ子民芸展」
10月14日～10月17日
古川市民ギャラリー第4展示

○役員選出について
平成21年度事業報告及び収支決
算について
平成22年度事業計画(案)及び
収支予算(案)について
7・22 理事会
○公益社団法人移行準備委員会の
設置について
○顧問・参与の推薦について
○新入会員(正会員)の承認につ

場「蔵」
 ☆第 20 回「視のふるさと東北書画展」
 10月16日～11月7日
 石巻市雄勝伝統産業会館
 ☆第 18 回人物画研究会作品展
 10月15日～10月20日
 せんだいメディアアテーク
 ☆第 19 回河北工芸展
 10月22日～10月27日
 せんだいメディアアテーク
 ☆第 17 回彩泉会洋画展
 10月22日～10月26日
 仙台市福祉プラザ2階展示ロビー

☆小熊由里子室内楽コンサート Vol.6
 《詩人の恋》～生誕200年ロベルト・シューマンロマンの世界へ
 11月11日
 仙台市太白区文化センター

☆東北書道秀技展
 11月12日～11月17日
 せんだいメディアアテーク
 ☆宮城教育大学マンドリン部第 39 回定期演奏会
 11月13日
 仙台市太白区文化センター

☆美里近代文学館開館 20 周年記念事業「美里の陶芸家・銅版作家作品展」
 11月13日～11月21日
 美里町近代文学館
 ☆文化講演「書に見る伊達政宗公」
 11月14日
 仙台市博物館ホール

☆竹の会第 2 回演奏会
 11月20日
 イズミティ 21 小ホール
 ☆宮城支部創立 30 周年記念いけばな展
 11月21日～11月23日
 せんだいメディアアテーク
 ☆みどりファンタジー
 11月22日
 仙台市シルバーセンター交流

☆第 55 回仙台三曲協会定期演奏会
 10月31日
 仙台市民会館大ホール
 ☆歌いつがれゆく日本の歌ーなつかしい歌ーあたらしい歌ー
 11月5日
 仙台市青年文化センター
 ☆第 49 回洗心書道展
 11月10日～11月13日
 仙台市民会館展示室

☆二科会写真部「第 35 回東北公募展」
 11月23日～11月28日
 福島市文化センター
 ☆國南書道選抜五百人展
 11月25日～11月28日
 宮城県美術館県民ギャラリー
 ☆クルリユミエール第 44 回定期演奏会
 11月29日
 仙台市青年文化センター

◇再興第 95 回院展入選
 〈日本画〉櫻田勝子、三浦長悦
 ◇第 57 回日本伝統工芸展入選
 〈工芸部〉(陶芸)浅野治志、岩井純、橋本昌彦(木竹工)本間潔(七宝)赤坂弘子、高橋通子、種澤有希子
 ◇第 19 回河北工芸展
 ▽宮城県芸術協会賞Ⅱ(七宝)吉田幸子 ▽東北放送賞Ⅱ(陶芸)大江文彦
 ◇二紀会
 〈洋画〉一般入選者Ⅱ岩澤誠一、佐々木和江、菅原典子、鈴木千津、松宮榮典、守田美代子
 同人賞Ⅱ佐藤光郎
 ◇上野の森美術館大賞展
 〈洋画〉入選者Ⅱ谷地森真理子、菅原典子

会員の入賞・入選など

◇行動美術協会
 会員推荐Ⅱ大内欽二
 会友推荐Ⅱ高橋幸造

受贈書

「合同歌集 松風」(松風短歌会)「遺句集 まぼろしの塔Ⅲ」(石崎素秋)「ファーストフラッシュ」(色川幸子)
 「七宝 美の世界」(高橋通子)「宮城の現代詩 2010」(宮城県詩人会)

謹 弔

写真部	齋藤智殿
文芸部(短歌)	5月24日 岡直勝殿
文芸部(洋画)	7月3日 柏谷清殿
文芸部(詩)	7月28日 大林しげる殿
絵画部(洋画)	8月6日 新井敏子殿
絵画部(洋画)	8月26日 芳賀精堂殿
書道部	9月20日 丸森洗純殿
茶道部(三彩流)	9月29日 宮地房江殿
顧問・工芸部(染織)	10月5日 渡邊礼子殿
参事・文芸部(短歌)	10月14日

あとがき

▼十月十日体育の日は、全国各地で体力測定や体育的行事が催される。その体力測定の結果中高年の体力が向上しているという。喜ばしい事と思う▼私達芸協会員も健康に留意し、気力体力を鍛えてますます創造する力を磨き上げたいものである。▼現在恒例の芸術祭が開催中で連日多くの熱心な見学者が足を運ばれておられるが、生命力溢れる作品を展示することで県民の方々に創造的精神性を高める一助となれば幸いである。(淑)▼帚草が「朝ごと」に紅葉を濃くしている。今年の猛暑がよかったのか背丈ほどに育ち、赤紫を基調にした色を呈している▼色と言えば墨は墨色、黒一色と思っっていたが、茶墨も青墨もあるという。書道部研修会でいただいた冊子の一節▼墨の濃淡、形象化していく書の世界の醍醐味。同様に絵画を観て不思議な色遣いの作品に出会うとしばしば立ち止まる。そして対話を楽しむ。そんな魅力的な作品が多かった。(佳)